



完食

刘 李 承 川
LIU LICHENGCHUAN

介護の技能実習生って何が一番大変ですか？とよく聞かれます。日本語だと思える人が多いかもしれないが、私の答えは心からの言葉です。何故かという、言葉って生きていて、人の心と連動して、優しさを運んでくれたり、ご飯を食べたくない人に完食までさせたりするので、まるで魔法使いのようです。

私が担当しているエリアにはお煎餅が大好きなA様がいます。彼は他の利用者様と違って無口で他の利用者様とあまりお喋りをしません。初めてA様の食事を介助する時に、私はとても緊張しました。まず教科書の通り、体調の確認や食事の準備を慎重に済ませました。A様に「先に何を食べたいですか？」と聞いたら、なんと「何も食べたくない」と言われました。いくら勧めてもA様は目と口も頑固に閉じて一口も食べてくれませんでした。3時のおやつ時間に笑顔でお煎餅を召し上がっているA様とまるで別人のようです。自分の無力さに悔しいです。

A様のことを指導員に報告しました。「あまり気にしないで、彼はいつもあまり食べない、完食したことはないよ。」…でもこのままで終わらせたくない。A様は英語が得意という情報を先輩から聞きました。私も英語が好きなので、役に立つかもしれないと思って、再度A様の食事介助に挑戦しました。「グッドモーニング！Aさん！今日も宜しくお願いします！」A様は目を開けて、チラッと私を見て、何も言い

ませんでした。私は続けて「マイ イングリッシュ イズ ノット ベリーウエル、バットユー キャン スピーク イングリッシュ ウィズ ミー」と言いました。また無視されるかと思いきや、A様は「OK」と返事してくれました。A様は私に喋り始めました。すごく嬉しいです。そして、私は改めてA様に挨拶をしました。「介護福祉士と看護師を目指して来日しました技能実習生劉と申します。これから宜しくお願いします。A様、ご飯も一緒に頑張りましょう！」想定外に今度A様はご飯、おかず、味噌汁まで全部食べました。A様の食事記録を記入する時に私はあまりにも嬉しくて大きな文字で「完食」と書きました。

食事の介助が終わって、指導員に報告しました。「ええ！全部？」「どうやってできたの？」とびっくりしていました。私は自分の腕を叩きながら「腕があるんです。」と自慢気に答えました。この一瞬、A様の目と口を閉じている顔、笑顔でお煎餅を食べている顔、私と会話しながら食事をしている顔をいっぺんに頭に浮かべ、達成感を感じながら介護という仕事の感動を味わいました。

言葉って沢山あって、いろんな人がいろんな言葉を使っています。介護現場では言葉って単なるコミュニケーションの道具ではなく、私達と利用者様の心に繋がる架け橋でもあります。心からの言葉は人を変化させる魔法のようですが、本当の魔法は言葉でした。